



~爆・爆・爆豪くん~

僕のオナペアカデミア

アニメ館



ガ
ヤ
ガ
ガ
ガ

みどりや
緑谷ちゃん
おはよ:

蛙吹...!
あ、いや...

僕の名前は
緑谷出久
(みどりや いずく)

ゆうえい
雄英高校
ヒーロー科に通う
年生だ!

つ、梅雨ちゃん
おはよお...!



もじ

もじ

ぱ
た:
ぱ
た:

ぱ
た:
ぱ
た:

あずい
蛙吹のやつ:
最近 可愛く
なったと
思わねえか?

そうか?別に
変わんねーと
思うけど?



いや..!!

俺にはわかる..

最近の蛙吹がまとった
オーラは..

女性特有の
色気ってやっだ..

ったく..蛙のくせに
"巨乳"だしよ..
最近また成長してる
みてーじゃねえか!

更には言えば..

蛙吹の下半身の太さ

いや腰つきと言うべきか..

いつか迎えても..いいよな

最近安定感が増したよな..

正直..

姿勢のエロさで言えば

学年の中でもトップクラス
だと思っぜ?

何かあるぜ..

ぜってー何かあるぜ?

女が色っぽくなるってのは

ぜってー何かあるんだよ!!



それはあれだ!

緑谷と蛙吹が
付き合ってるから
じゃね?

あれ...!?

知らねーの?
結構：噂になって
るぜ?

ヒュー



う、嘘だろ:
男に興味なさ
そうな蛙吹と:
アイツ

どつちかつつと
うららかと
いい感じだと
思ってた緑谷が:
アイツ

いつからだよツ!?

チキシヨー!!

って事は何か!?

俺が感じた
蛙吹の色気は
メスの発情的なツ!?

いやいやツ!
って事は何か!?

もうそういう関係に
既になってるって
事なのかつ!?

ボツ

だ、大丈夫?
峰田くん!!

ふい
ふい

最近の蛙吹：い
いや：梅雨ちゃんは

すごく積極的で：
エッチになった：

ちよつと強引だけど
押し倒されて：

ねっとり
ディープなキスで
ひたすら

攻めてくる：

僕はいつも
うっとり防戦気味：
でもこのキスが
大好きだ：

何が好きかって：

食道まで挿入
られる事かなっ

これがすっごく
クセになるんだ：





(緑谷ちゃん…)

こんなに大きくして…

す♡♡♡

ジュジュ
クローンクローン

(緑谷ちゃんの足…)

震えているわね…

気持ち♡♡♡

クローンクローン

(緑谷ちゃん… 可愛♡♡♡)

「蛙吹あすの梅雨つゆちゃん！ 僕もさっす！！」

「ゲロ…！ わひやったわ」

「緑谷ちゃん… イキたいのね…」

「可愛いワ…」

「おはっ、おはっ」





(緑谷ちゃん…)

どんどん硬くなってきたワ…♡)

「梅雨ちゃん 僕もっ…」

ドゥポッポ

ドゥポッポ

ドゥポッポ

ドゥポッポ

ドゥポッポ

ドゥポッポ

ドゥポッポ

ドゥポッポ

ドゥポッポ

ドゥポッポ

ドゥポッポ

ドゥポッポ

やばいよ!
イクっ、イクっ!!

イクっ、イクっ!!

イクっ、イクっ!!

イクっ、イクっ!!

イクっ、イクっ!!

イクっ、イクっ!!



「アツ▼アツ▼ 最高だよお♥梅雨ちゃん♥」

「ケロ： んっ♡んっ♡ゴクゴク♡」

「はあ はあ♡♡飲んでるの?」

「飲んでるワ♡」

「うえ ♪♪♪ ♪♪♪ ありがとう♡」

「ゴク、ゴク」

「何やってんだ…!!」

「……」

「アイツら…」

「ば、爆豪ちゃん…」
「私に話して何かしら…?」

「今日 これからお前ん部屋いくぜ?」

「えっ…!? どういう事かしら?」

「オメェン部屋で オメーといい事するんだよッ♡」

「…? 言っている意味が分からないワ?」

「今からオメェン部屋 行ってもいいよな当然?」

「…? 爆豪ちゃん… どうしたの?」

「いいんだぜ俺は別に?」



?

?

「わからないワ…。」

「そうね…」

「いいか悪いかで言ったら…」

「部屋はお断りだワ」

キツパリ



「緑谷とは密会して…」

「よろしくやってるよなお前?」

「校内でとか健全すぎだろ?」

「いいんだぜ俺を断っても?」

「お前らに期待している連中が
ショック受けることに…」

「なるかもしんねーけど?」



「緑谷ちゃん、ごめん。」

「爆豪ちゃんを鎮めるには仕方なかったワ。」

「ホラッ！ ちゃんと寄せるのでッ♡」

「ここ、こうかしら？」

「そっだよ♡ 超美味ーぜ 蛙吹の乳い♡」

「あっ……っ……。」

チュウ♡

チュウ♡

あゐ

あゐ



「爆豪ちゃん…もういいかしら…?」

「ダメだッ! もっと吸わせるツッ!」

「ケ:ケロ: …。」

「爆豪ちゃん: スゴく吸ってるワ…」

「お乳が好きなのかしら…」

はぁ

はぁ

かかか

キョッ
アッ
キョッ

アッ

キョッ
アッ
キョッ

アッ

キョッ
アッ
キョッ



【結局： 爆豪ちゃんを鎮めるために
最後までやっちゃったわね…】

【緑谷ちゃんに合わせる顔がないワ…】

【しかも：もう4回目ね…】

【どうなってるのかしら…】

【避妊具も切れたし：そろそろ帰って
もらわなきゃだワ…】

ケロ。

【爆豪ちゃん： ゴムがもう無いの…】

【アン？】

【ゴム無しじゃ危険だワ わかって爆豪ちゃん…】

【蛙吹 後一回だ！ 後一回やったら帰るぜ！】

【…】

【わかったワ…】

ケロ。



ゴッ
ゴッ



ホラ 挿入るぞ？
蛙吹！

あっ

あっ

あんっ

ズブズブ
ズブ

ヘロ



「つかか…」

「蛙吹 オメエ： すぐ濡れるよな？」

「…!! …!!」

「…!!」

「ケロケロ…」

「…!!」

「…!!」

「…!!」

「…!!」

「…!!」

「…!!」

「…!!」

「…!!」

「…!!」

「…!!」

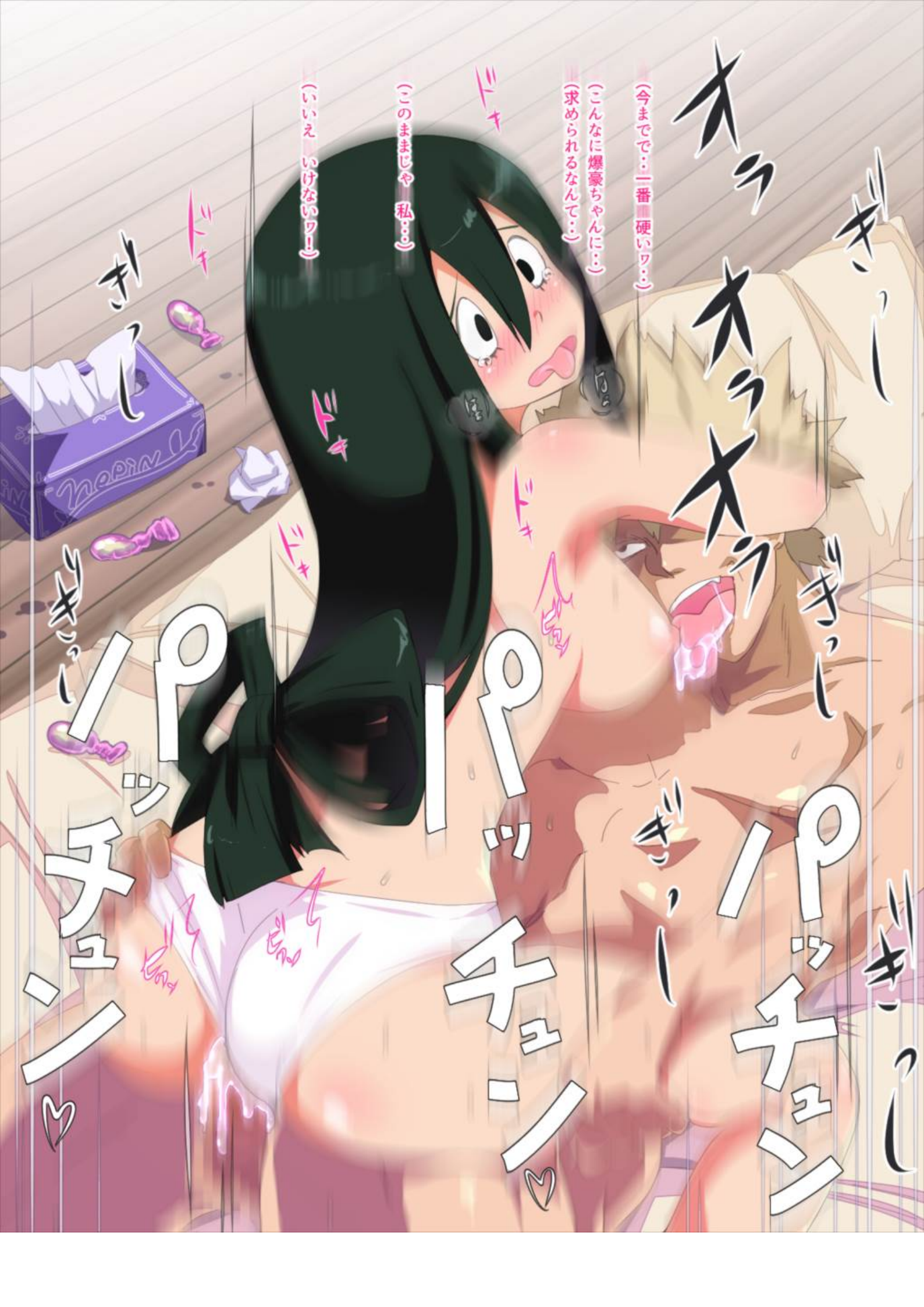
「…!!」

「…!!」

「…!!」

「…!!」

「…!!」



(今までで…一番「硬いワ」)

(こんなに爆豪ちゃんに…
(求められるなんて…))

ドキ

(このままじゃ「私」…)

(いいえ いけないワ！)

クワッ
グッ
グッ
グッ
グッ

チュチュ
チュチュ
チュチュ
チュチュ
チュチュ



爆豪ちゃん：

凄く脈打ってるわね：

な、長いワ：

ゴム無しなの分かってて：

私の膣内^{なか}で出してるワ

どういうつもりかしら

ケ、ケロ〜

...

緑谷ちゃん：

緑谷ちゃん：

ごめん...

ケロオオ

あ...あ...

フロツピく？
なあに震えてんだ
オメエ！





~爆・爆・爆豪くん~
僕のオナペアカデミア



アニメ館



「あつ しんぞう 心操くん：だっけ？ 私に話して
なんやろ？」

「…。…」

「あ・・うち そろそろ行かんといけんのやけど？」

うららか
「麗日さん…！」

「は、はい…?!」

「お、俺……」

「は、はい!!?」

(ど、どうしよう… これ…まさか
告られちゃうのかな…こ、困るっつ)







(は？ な、何？
な、何がしたいんやろ…)

(というか この人：
個性なんだっけ…!?)





「麗日さん・悪いけど・普通科の俺からすれば 君は・」

「は、はい…っ !?」

「断ち切るには眩しすぎた。」

「は、はい!? ……?」

「それ故^{ゆえ} 足掻^{あが}いた。」

「えーと… そ、そうなんだ…?」

「こ、こわい… はやくこの場を去らなきゃ!」



「麗日さんツ!!」

「は、はい…っ!!」

「キミはヒーロー科で…」

「…!!? ……?」

「一番 可愛いと思うよ?」

「っ…!!?」

「あ、ありがとう!」

「あっ… そろそろ私行かなきゃ!」

「フフ。それは… 叶わないよ
何故なら…」



「キミはこれから抱かれるんだ。」

「爆豪くんからね。。。」

「っ…!!? ……?」

「もちろん 同意の上でっことで!」

「えっ…!! 同意? 爆豪くん?」

「いいいったい何の話…???」

「キミは抵抗を絶対しない!」





個性
洗脳



「…? ? !?」

「準備…できたよ…」

「爆豪くん…」

「えっ…!?!」





「でかしたぜ 心操ッ！」

「……！」

「よう丸顔ッ！」

「ば、爆豪くん？居たの!？」

「いいいったい何やの!？」

「しかも裸っ!？」

お

ん



「うわあっ!？」

(今度は かべドン:!!)

「こうでもしねえと オメえは
クソオード
糞緑谷と離れねーからなア？」

「やりたくてたまんねっつーのによッ？」

「いいか？ オメエをヤルのは俺が一番だ！」

「え……私……と……？」

「あれ……私……どうしちゃったんだろ……!？」

「そっだよ たっぷり
可愛がってやるぜッ！」





「いつでなッ!!」



ちよちよと
待ってよッ!?

イヤ!

ちよととッ!?

ストライク!

おおお!

クワッ

クワッ

クワッ

まじ：デケエ：
やべえよコレ：

(私 どうしちやつたの!!)

(嫌なのにつ!! こんな絶対イヤ!!)

(この二人：何考えてっ：イヤ)

ったりめーよ!
うららか
麗日だぜ!?

よし! ひん剥くぞ!



(私は緑谷^{デク}くんの事が
好きなんだ!)

(こんなヤツらにッ!!)

(好きにさせてえ!
たまッ!?)





（るかつ…）

あ

ふ

に

て

て



何じゃアッアッ

(み、見られたあああつ...)
(誰にも見せた事ないのでいい)

うあっ
ひげん



たまたまねえ
このズツシリ感♡

しかも
超いい匂い
するぜ?♡

デカイのに
弾力すげえ♡

ぱぱぱ

ぱぱぱ

ももも

ももも



だ、だめっ!

もう我慢
できねえ...

吸っても
いいよな?♡

丁度1個ずつ
あるからな♡

パッパッ

パッパッ

グッ

グッ





だめっ

いやっ

ななな

チュ

チュ

チュ

チュ

チュ

チュ

チュ

チュ

グググ...

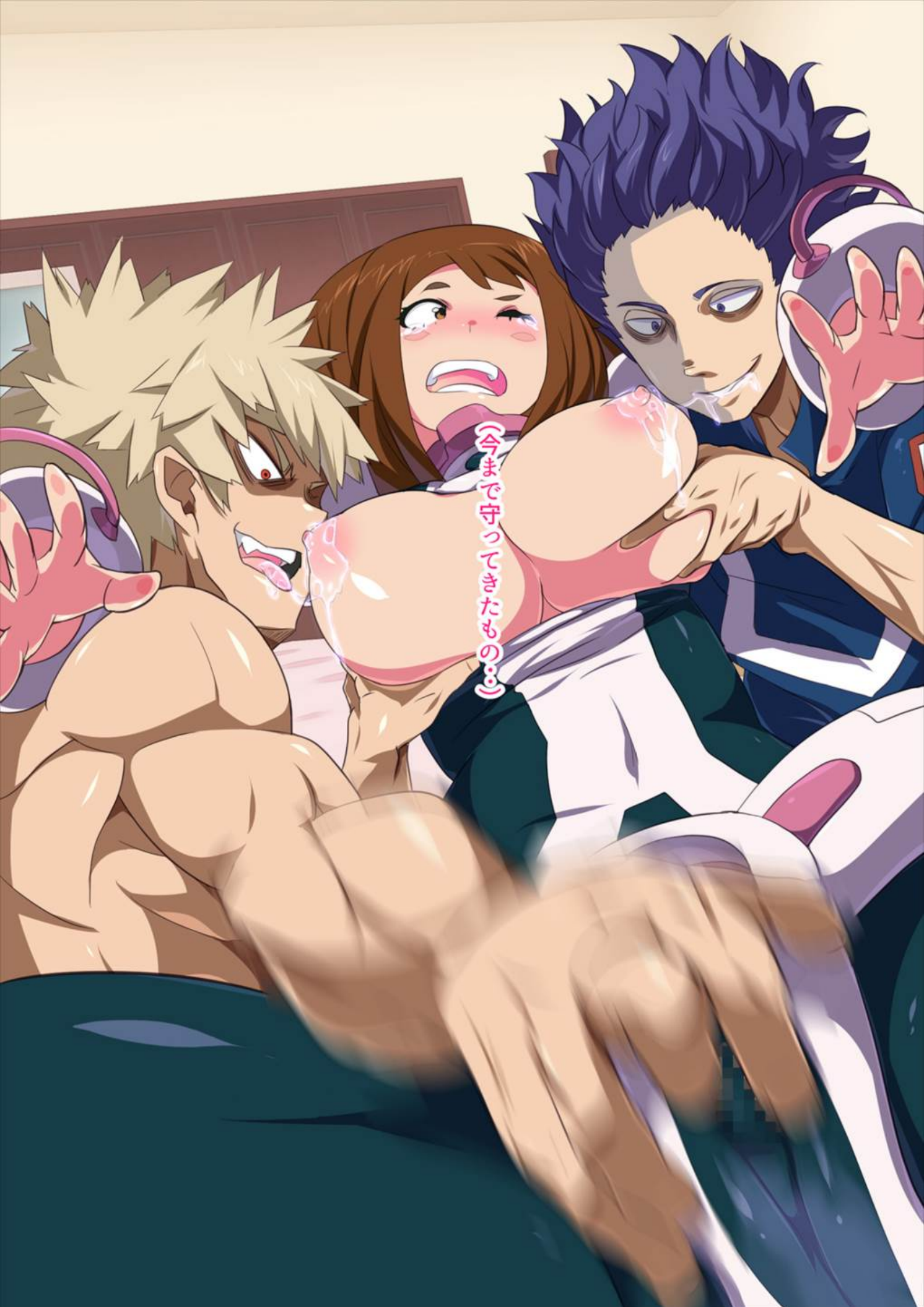
♡

♡

♡

♡





(今まで守ってきたもの。)



(全部奪われちゃうよ…)

（とうとう）
爆豪くんのおち○ちん…

（いれ）
挿入られちゃったあ…

「んうッ！ んうッ！！ きらいッ！！
こんひや事する爆豪くんなんかっ！」

「うっせーぞ 丸顔ッ！」

「俺のチ○ポで マ○コビショ濡れしててよく言うぜ」

「………う、うるひゃいっ♡」





やあーあっ!

はげ
激ひく
ひないでえっ!?

爆豪きゅん

やめひえええっつ!!

オラ
オラ

オ
ラ
イ

りやめっ！

りやめえ！

(やだよ 爆豪くんていっばいだよお!?)

爆豪きゅん

りやめえええっつ!!







やおよろず もも
八百万 桃

「ば、爆豪さん……!」

「やはり いけませんわ……こんな事……」

「アア? もうチ○ポ挿入はいつてるよッ♡」

「はう…… うう…… で、ですからっ!」

「どうせいつかはどっかの誰かに」

「チ○ポ挿入はいられんだらうーがッ♡」

「だったら今 受け入れればいい話だろーがッ♡」

「で、ですが…… 私には…… 好きな…… つ……」

「人が……」

「知らねーよッ
んーなこッ♡」

「っ……」





ああっ!?

スッ

スッ

スッ

スッ

「八百万ツ？」

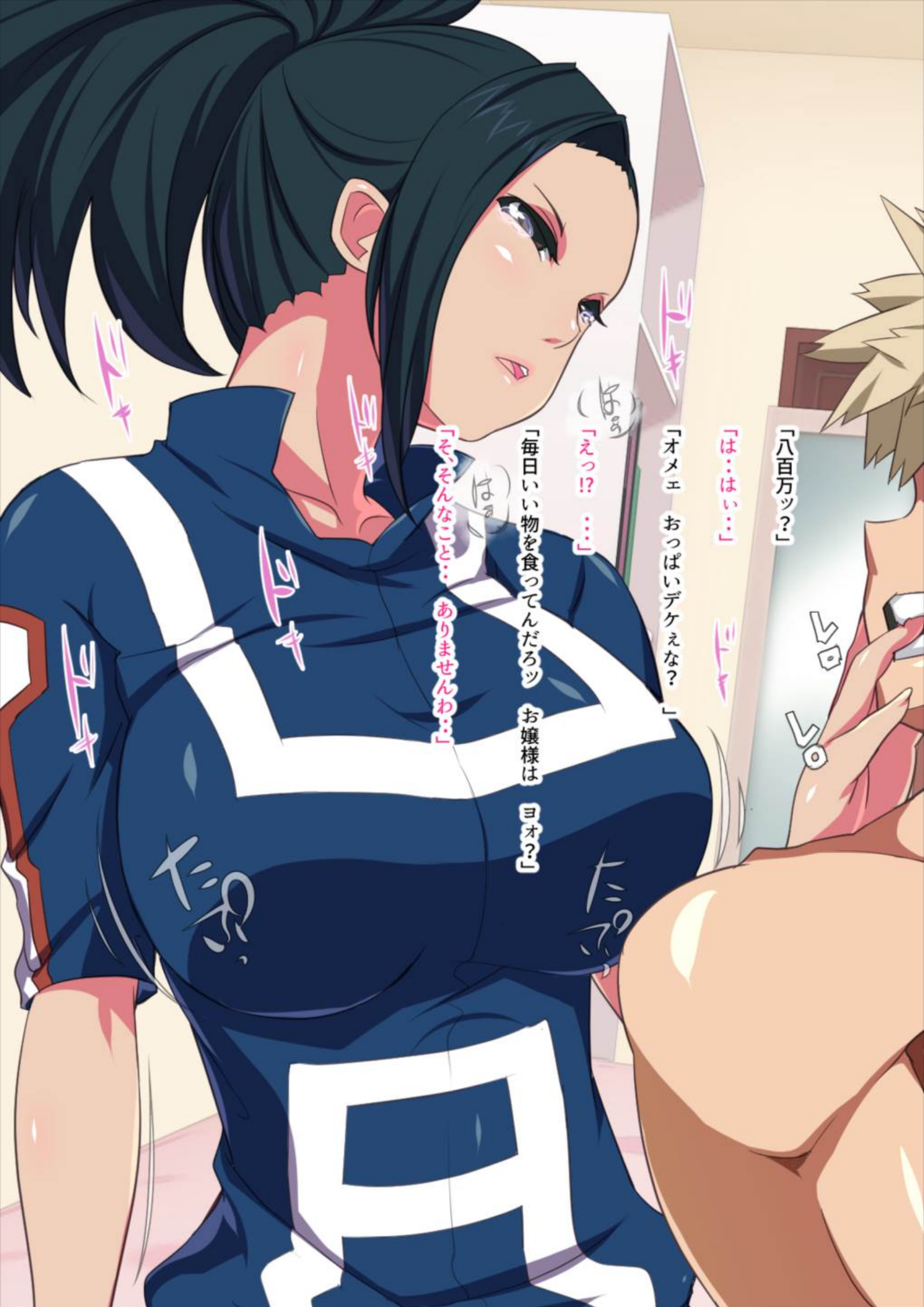
「は…はい…」

「オメエ おっぱいデケえな？」

「えっ!? ……」

「毎日いい物を食ってんだろツ お嬢様は ヨオ？」

「そ、そんなこと…
ありませんわ…」





きゃっ!!

くっ

おっ

おっ



「ああ…!? つ…。」
「殿方に…。」

「へえ〜 スゲーな♡」

「ヒーロー科でナンバーワンだぜ♡」

「いやですわ…。」
「み、見ないでください…!?!」

「ムン、ムン」



「八百万〜!〜!」

「は、はい…!? あっ ツ!?」

いいやっ!?

痛いっ…!?

ギョウウウウ…

フッ
フッ
フッ

フッ
フッ
フッ

んっ
んっ

んっ
んっ

んっ
んっ

んっ
んっ





はっ...!?

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ
はっ

はっ

はっ
はっ

「八百万さんぐっぐっ♡んぐっ♡」

「ば、爆豪さん…っ。」

「そ、そんな赤子のように…あっ。」

「ああ…初めて胸を吸われましたわ…」

「わたくしの胸を…こんなに夢中に…爆豪さん♡」

「嫌なのに…でもなんだか…可愛いですわ…」











爆豪...さん...。

「... ..」

ドクドク

ドクドク

ドクドク

ドク

ドク

じろうきょうか
耳朗響香



「な、なんで うちなんだよっ!」

「オメエも ヤリてー女の一人だからだよ」

「ば、爆豪…」

「恥ずかしくないのか? こんな事して…?」

「しっかり啜えこんで お説教かオメエ♡」

「……」

ギシ

ギシ

ぷるぷる

ちゅっ

ちゅっ

ひんたよ



「チ○ポ挿入いれた女は可愛く見えるぜ？」

「っ……っ……！」

「声：押し殺してるのかオメエ？」

「っ……っ……！」

「ここだけの話：クラスで一番お前が……」

「締めしまりいいぜ？♡」

「っ……!?っ……！」

「っは……んっ……んう……んっっ」

「や、やめろっ！そういう事言っつなっ」

ほ

ほ
ちゅん
ちゅん

ギ
シ
ギ
シ



あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

けんどういつか
拳藤一佳





「ば、爆豪くんっ…いやっ…!!」

「だめだよっ こんな事っ…!!」

「オメエがエロい体してっからだろーがッ」

「ど、どうして…っ 私こんな事望んでないっ!!」

「オメエのマ〇コ グシヨグシヨだろーがッ」

「…っ …っ …っ …っ …っ …っ」

はっ

はっ

はっ

ギッ
ッ
ッ

ギッ
ッ
ッ

ギッ
ッ
ッ

ちゅぽ
ぽ

ちゅぽ
ぽ

ちゅぽ
ぽ

ちゅぽ
ぽ

(こんな事されたら私…もう…)

(爆豪くんが私の膣内^{なか}で暴れてる…)





「えっ!? エエエツ!!」

「ば、爆豪くんっ?」

「ちょ、ちょっと!? お腹の中で出てる!」

「ったりめーだろーがッ ウツ ウツ…♥」

「いや…っ

あっ…っ

あ…っ

あん…っ。



あっ

あっ

あま

あま

あま

あま

あま

ド

ド

ク

ド

あま

はつめ めい
発目 明



「は、爆豪さん？ ちよつとあのっ！」

「こういう事 まだ早いと思うんです…！」

「そ、それに私は あまりこういう事はですねっ！」

「うっせーんだよ サポート科なら…」

「しっかり俺の性欲を満たせッ！」

「このエロいカラダでッ！♥」

「っ… … 爆豪さん… 無茶苦茶ですよ…」

ああ…っ
はいっ…
挿入っ…

あ、ちよっ

「もうこんなにマ○コがグシヨつてるぜ？」

「いいやつ それは不本意と言いますか、そ、その…」

「私の意に反してる事は明確なわけでーブツブツ…」

「機械ばっかイジってっからッ」

「気持ちいいだろ？ 男のパイプわよお？」

「っ… いや… その…」

「オメエは おんな 女体 なんだよ？♥」

「あっ… や… やだ… あ…っ…」







「あっ!! あの!! 爆豪さんっ!!」

「な、なんか めっちゃ出てますけど…!!」

「えっ… あ、あの えっと…これはつまり…」

「射精^だしてんだよ今」

「っ…!! だ… 射精^だしてるってっっ!!」

「そんなあああっ」

「はあく 超きもちいいぜ♥」

「流石 サポート科♥」

「ああ…っ …っ …っ …っ」





あしどみな
芦戸三奈



「へっへっへ♡どうした芦戸く？」
あしど

「ば、爆豪くん… だ、だめ…！」

（あれ… 私どうしちゃたんだろ…）

（爆豪くんは胸を触られているのに…）

「ちよ、ちよっと・爆豪くん…？」

「でかいと思ってたが 想像以上だぜオマエ♡」

「あっ、あっ、ちよっとお…」

モ
三

モ
三

三

モ
三

モ
三

三





「だめだよ…こんなこと…」

（どうしよう… 抵抗できない…）

（このままじゃ… わたし…）

「っ…っ…」

「…っ…っ…」

モ
モ
モ

モ
モ
モ

モ
モ
モ

モ
モ
モ

シ
あ
あ
あ



あっ!?

カッ
ッ

アッ!
アッ!



「うわわわ…!! わわ…。」

「えっ、えっ、ば、爆豪くんっ…。」

「んぐっんぐっ…。」

「うっそお… 吸っ!! …。」

「あっ…!! ちよ、やめっ… うわあ!」

キュウウ〜

キュウウ〜

キョウ

キョウ





「アン？」

「爆豪くんっ もう吸っちゃイヤっ!!!」
「だ、だめだよっ! こんなこと!」

モジ

モジ

モジ



(結局：爆豪くんに入いれられちゃった！)

(いけない事なのに： どうしてえ〜)

「あしど
菅戸く？」

「結構ビショビショじゃね？」

「ちが、私： ちがう…！」

ボイン

ちがう

ちがう

ちがう

Keep

ちがう

ちがう

ちがう





しよこ 挿入^{いれ}たまま クリクリしなひでええっ： あひい ひいっ ♡

ば、爆豪くんっ だめっ だめえ ♡

それ以上されたら 私^{あたひ}い 私^{あたひ}い

爆豪くんの事 好きに なっひやううう ♡

いひやあああ らめえええっつっ ♡

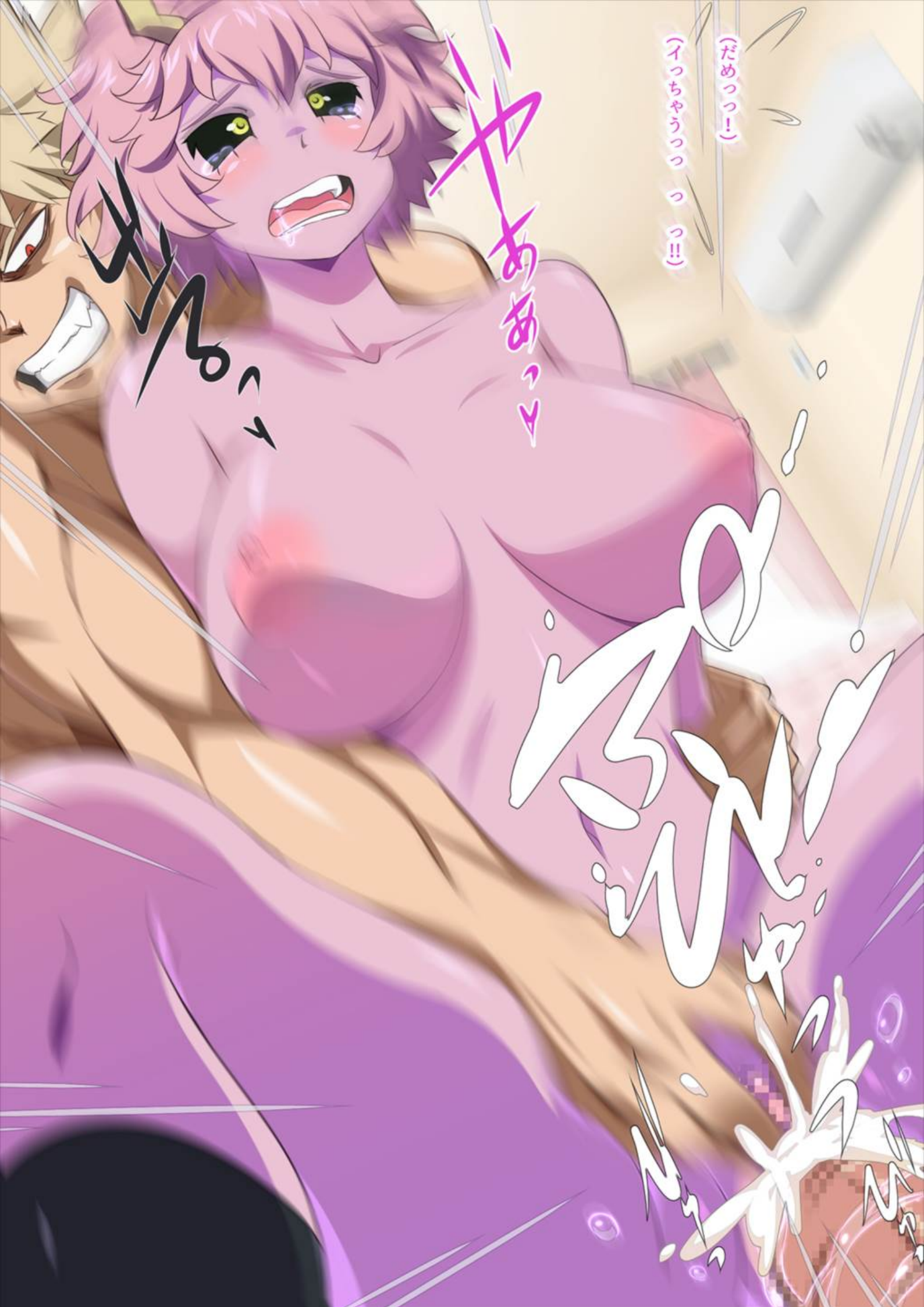
ドキ ドキ

爆豪くううんっつっ ♡

はっはっはっ
はっはっはっ
はっはっはっ

はっはっはっ
はっはっはっ
はっはっはっ

はっはっはっ
はっはっはっ
はっはっはっ



(だめっっ!)

(イっちゃうっっっっ!!)

あぁぁぁ

んんん

んんん

んんん





(爆・豪くん・♡)

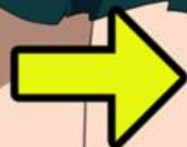
~爆・爆・爆豪くん~
僕のオナペアカデミア

おしまい

私のおまけが
あるワ
♡



NEXT おまけ





ケロ

(緑谷ちゃん：今日は興奮してるわね…)

(こんなに母乳を吸うなんて)

珍し(ツワ)

んっ

んっ

んっ

ケロ

(チクシヨーツ!!)

(絶対：爆豪君にヤラれたはずだ)

(僕の梅雨ちゃんをツ)

(僕の梅雨ちゃんをおおツ!!)



ケロ

(緑谷ちゃん：どうしたのかしら…)

ケロ

やあんっ

(チクシヨーツ!!)

(僕の梅雨ちゃんなのにSSS!!)

ケツポ



んっ

んっ

んっ

ケロ

あとがきてきな

最後まで読んで頂き誠に誠に
ありがとうございます！

ヒロアカパロディ如何だったでしょうか！
お気に入りのヒロインは
いましたでしょうか!? (ドキドキ)

私は芦戸ちゃんが一番好きだったりします！
性格もルックも大好き(ならもっと描けよっ！)

ヒロアカは面白いので気合入れて描きましたが
7人も欲張るとラフ時は楽しいのですが後半バテました。
まあ持病なんですけど(次の作品いきたい病)

また新米サークルにも関わらず作者宛のお便り多数頂きありがとう
ございます！ 嬉しいですし がんばろー！って思います！

おっぱいへのこだわり勿論ありますよ！
本当はおっぱいだけで終われるならもっと描きたいくらいです！笑

では長文駄文失礼いたしましたして..
また次回作でお会いできれば幸いです！

ぷらすーーーうるとらーーーっ！

2018.1.28

アニメ館